

第三回 心肺蘇生・AED 授業セット開発委員会
第五回 心肺蘇生・AED 授業セット開発委員会 WG 合同会議

1. 日時

令和元年 12 月 22 日（日曜日）10 時～15 時 30 分

2. 場所

アルカディア市ヶ谷 私学会館 6F 阿蘇（東）（東京都千代田区九段北 4-2-25）

3. 出席者（※以下、敬称略）

委員長 石見拓

委員 野津有司、村井伸子、矢崎良明、山下誠二、吉原昌子、和田勝行

WG 長 立川法正

WG メンバー 岡野正人、岸平直子、白川和宏、関恵美、西山知佳、本間洋輔

事務局 小林広樹、小藁友香

4. 議事録（案）

1) 高等学校

① 指導案発表：発表者 村井（資料 2-1 高等学校指導案）

- ・ 「資料 2-1 高等学校（春日部高校授業時）」は指導時間に合わせ簡素化したものである。
- ・ 時間的に 1 人 1 体で行うのは難しいためペアを組んで実習の形をとった。
- ・ 理想は 3 時間だが、実際は応急手当で 3 時間の授業時間の確保は難しい。指導案は、一応、3 時間で作っている。
- ・ 授業者は保健体育の教諭。これまで応急手当指導の景観はなく、前日に指導案を共有。従来は 3 学期にやる内容を前倒しで行った。
- ・ 春日部高校は 1 コマ 65 分授業である。3 コマ構成の心肺蘇生の授業と関係ある部分にみの授業を行うため、授業最初の 15 分に応急手当の意義説明を行い、残り 50 分を指導案に従い行った。3 コマ目は最初の 50 分が指導案に従った内容となっている。
- ・ 授業者が手元に持つ解説書のようなものが必要だと感じた。
- ・ 抑えるべきポイントが入っている DVD があると良いのではないかと感じた
- ・ 予定ではチェックシートを最初に配り、1 回目に自分でチェックし、最後に振り返りでチェックシートを使ってやりとりをする想定だったが、授業者が最後に配ったため振り返りでの発表の時間が不足。チェックシートの共有の時間があると良い。
- ・ 複数人のシナリオについては、それぞれ詳しいシナリオについてはシナリオ解説をつけた。あまり詳しく生徒に向けて書きすぎると生徒が考えなくなるので、前時の授業を生かせる内容にとどめた。
- ・ それぞれシナリオ ABCD、生徒用のシナリオの状況はわかるが、必要のなかったケースがあり生徒の混乱が見えた。
- ・ シナリオ A：相手が女性であっても救命できるようにする点をこだわっているのも、男子生徒が女子生徒を発見した想定に。周りに誰もいない場合の処置も想定。
- ・ シナリオ B：学校のグラウンドが奥まった場所にあり、救急車が入れないことを考えて議論していた点に感心した。
- ・ シナリオ C：水泳中の事故については人工呼吸の必要性を考えさせる。

- ・ シナリオD：先生が倒れたケースでは、隣の先生を呼ぶなどの意見が出た。
- ・ 時間があれば色々な意見を引き出して生徒同士で議論できただろうなと思うと残念。生徒たちの意見を最後のまとめで共有できなかった。
- ・ 社会的な観点での議論も必要。国が法律で AED を設置する場所を決めれば良いといった意見も出たが深めるため時間が足りなかった。
- ・ 最新版はプレ授業を受けて、反映させた内容で作成した。

② 議事

山下 （※高校の内容についてではなく、全体の話として）授業時間について、例えば小学5年生6年生で導入部分をやるならば、中学2年生で2時間ではなく、中学校1年でも1時間やったほうがよいのでは？（1年空いてしまうため）

また、小学校での保健（東京書籍は教科書に組み込まれている）授業を検討してはどうか。

- 立川 中学1年、2年で一コマずつやるのは可能か？
- 山下 さいたま市ではそうやっている。小学校は保健に AED が入ってきたのでやりやすいのではないか。
- 石見 さいたま市のケースを全国に求めるのは難しいため、現実的に入れやすい授業はどこだろうという議論で進めてきた。学級活動だけでなく保健を入れるのもオプションとして検討。小学校の時に改めて議論したい。

村井 補足。チェックシートを最後に配ってしまったため最初に配るのが良い。改善すべき点を挙げるのではなく、良かったところを挙げると前向きに生徒が考えられるという野津先生の助言を頂いた。

シナリオを4つを用意したが、ポイントを2~3に絞って、授業者が選べるようにする。時間的に短縮する意味で、全員ができなくても、やってみてどうだったか引き出す時間があればよいと思う。

- 石見 展開①のディスカッションのポイントは何か。電気ショックが必要ないものや人工呼吸が必要なケース（CD）をここで入れると焦点がぼけてしまうのでシナリオの修正だけ行った方が良い。

西山 1時間目の授業で繰り返して身につけさせるのが大切、実技に重きを置くのがいいのでは。時間が空くと忘れるので、ゼロから教え直さないと入ってこないのでは。（※これまで習ってきたとしても忘れてしまっている前提）

デモ授業を行った体育の先生は、ほぼぶっつけ本番でやって大変だったと思う。

2時間目は、どのシナリオを使うかは先生に任せるのが良いと思った。

- 石見 あまり技術の事を言わなくても良いのでは？限られた時間でどれをやるのか？
- 西山 3時間ある前提であれば実技も行うのが望ましい。
- 石見 人工呼吸は出来ていない印象があったが、その他の実技は出来ている印象を受けた。チェックリストを使って議論するほうが良い。
- 村井 50分あれば、DVDを流して繰り返すことも重要。学校によって生徒の課題が違うので、（内容を）選択できれば良い。

西山 指導案では、チェックリストを2回使う案になっているのか？

→ 村井 チェックリストは自己評価、他社評価どちらかの評価をやるというイメージ。両方行っても良い。

矢崎 スッキリした指導案で概ね良い。大前提として指導者の先生の考え方があるため、指導案では細かいところまで書かないほうが良い。

<以下、詳細の指摘事項>

- ・ 単元目標の中に心肺蘇生・AEDの使用という目標があるが、単元計画の中にはAEDはなく、3次計画の中にはAEDがあるという形なので、統一した表記とした方が良い
- ・ 本時の展開とチェックリストで表記にブレがあるので整合性をとる。同じ表現のほうが良い。
- ・ シナリオの問題：先生が選ぶのか子どもが選ぶのかはどちらか
- ・ シナリオカード：ゴシックの太字で書かれている文言と状況のどっちが大事なのか
→ 村井 混乱を避けるためゴシック太字を削除し、状況のみのシナリオでどうかと考えている
- ・ 除細動・電気ショック・AED使用という文言を統一する
- ・ 目標・救命率の向上、指導案・救命率を上げる → 文言統一をする。
- ・ 初めて見た人が迷わないように文言統一は必要
- 石見 用語について、原則は医学的な用語・ガイドラインに合わせる。小中高全体を通じて同様。石見、立川の医療側で最終的に統一する。
- 野津 用語に関しては、医学的用語を正しく使う原則はあるが、それ以上に教科書で使われているものを使うのが一番適切。現場の先生にとっては教科書に書いてある用語が正しい。

山下 (心肺蘇生に関しては) 全国的に差がありすぎる。これから浸透させるには5年間かかる。どの先生にもとつきやすい指導案が良い。

立川 学校の先生は心肺蘇生について詳しくないため、裁量にしてしまうと実際にできるか？ある程度の細かさも必要では。
大きな流れとしてはこの形で進めて良いか。

村井 資料2-1 高等学校(最新)版の(タイトル)下に「主体的・対話的・・・」と追加した。これを目指す指導案の一例であると付け加えた。

西山 高等学校で中学校との違いを明示する意図と意義は？

- 小薬 小中高での一貫性が見えるのが良い。一貫性を図る上で、高校はどうするかを事前にわかるようにして欲しい
- 西山 小中の(指導案の)中に入れるのか？
- 小薬 明記するかを含め議論を行って欲しい。
- 石見 どの段階でどこまでステップを踏んでいくか明記しても現実には追いついていない。
明記はするのは早い。大まかにはこのくらいというイメージで幅をもたせた指導案にしたほうが良い。

吉原 指導案のフォーマットをそろえる。狙いを持ってやるなら**評価基準を設定し評価していくという内容を盛り込むのは大前提**であると思う

- 村井 高等学校は評価基準がまだ出ていないため（評価の項目は）入っていない。評価基準ができたなら入れていく予定。
- 野津 まだ新学習指導要領に基づくものができていないので、**現行のモノに基づいて作っていくことになる**。（新学習指導要領の基づくものの完成は）高校は間に合わないと思われるが、現行のものと大きく変わらず、方向性としてより改善を図っていく内容となろう。

野津 委員会で作成する指導案をどういうものにするべきかは考える必要がある。

- ・ 心肺蘇生の指導案は全く新しいものではなく、新学習指導要領に沿った授業を構想し一つの学習指導要領に基づく授業モデルを掲示するもの
- ・ 指導案の書き方についてはいろいろな意見があり、どれが正しいかをここでは決めることではないが、ここで示す指導案としては統一する必要あり。
- ・ 「これでやりなさい」とか、「これ以外はだめ」というスタンスではなく、新学習指導要領にできるだけ則た授業のモデルを一つの実践事例であるべきである
- ・ 先生が授業をイメージできる指導案にしないと付ける意味はない。中途半場だと今自分が行っているものとの比較も出来ない。
- ・ **本時の展開：学習内容が入っていないので、どういう内容を学ぶかをわかるようにする。**
- ・ 自分でチェックするというのはどういうものか？という内容もわかりやすく端的な言葉で記載する。例：「自分でやったことを振り返ってチェックしましょう。」
- ・ 指導上の留意点に書いてあるものは、以下のことに触れるとかいてあり①～④が書かれているが、①指導上の留意点②③④学習内容のような気がする。
- ・ 述語の表記などで素人感が出ると良くない。細かいことを大事にしないと実現に至らない。
- ・ 「**5 展開**」の項目で、「**原理と実習**」という表記があるが、保健では見方、考え方含め**原理（という表現）は避けて原則までにとどめている。原理（という言葉は）は物理や化学レベルの表現として保健で（使用すること）は避けている。**

石見 学習指導要領の書き方としての体裁はバージョンアップしていく。医学的な表現については教科書を優先ということでしたが、心肺蘇生や心停止が総務省消防庁が国際表記と異なる表現を使っており教科書が誤っている表記になるが、合わせたほうが良いのか。

- 和田 お互いの言い分もあるので難しいが、現場で使う以上は現場に即したものにしないといけない。現場に浸透させるためには必要。
- 石見 教科書側は何を拠り所になっているか？
- 野津 検定が拠り所。
- 石見 統一は図られている？
- 野津 教科書によりバラバラということはない。
- 石見 **基本は教科書に合わせる**。ガイドラインの変更があったときは、教科書の表記を変えるようにこちらからも提言していく。気になったケースとして、古いガイドライン

の表現が教科書に載っていて、それを元にテストが行われていた。現在の表現では正解のはずの回答がバツにされていた。

→ 和田 学校教育共育を組み立てていくせめぎ合いが続いていく中で、文科省が変わるペースは昔に比べて早くなってきた。自分としても学校保健を変えるムーブメントを起こそうとしている。

2) 中学校

① 指導案発表：発表者 岡野（資料 2-2 中学校指導案）

- ・ 中学校は保健の分野で学習している学校も多い。傷害の防止の授業で2時間。
- ・ 1時限に実習を入れると時間が足りなくなる。

② 議事

立川 1限目でグループ学習をやって知識をつけ、2限目でプッシュコースに準じた実習を含めた授業を行う展開。

矢崎 <指摘事項を以下箇条書き>

- ・ 単元目標：3つ目の（意欲的に取り組むといった）内容は、全国版としては不要。
- ・ 単元について：障害の防止は良いとして、「意義や必要性を身につける」と表記があるが、学習指導要領では「意義」は入っているが「必要性」は入っていない。
- ・ 単元計画：傷害の防止が第1時の方に入っていたほうが良い。
- ・ 展開：挨拶などの表記は不要。
- ・ 本時の目標：①は良いが、②は不要。①と一緒にしてひとつで良い。
- ・ 展開：細かく指示があるが個人の指導案としては良いが、全国版としてはワークシートにまとめる程度でよい。細かい方法論は指導する先生の裁量、思いもあるため。
- ・ 本時のまとめ：ワークシートを使っても良いが、感想を発表するなどの程度で。
- ・ 展開例：「仲間と協力し、意欲的に」「集合・挨拶」「出席確認」「隣の班との間隔」なども不要。先生の思いとしては分かるが、全国的には不要なものは省く。
- ・ 用語の統一。学習指導要領にない言葉は使わない。

野津<指摘事項を以下箇条書き>

- ・ 目標の立て方の観点は現行のものを引き取ってやれている。主体的に云々といったところは、柱の3本目として示しているので必要。
- ・ 展開例の目標で（単元目標の）三観点（を入れるの）は無理だが、二観点は引き取る必要があるので、この様になって良いと思う。
- ・ 2時間目の仲間と協力して云々は、この授業において主体性を感じさせる表現に工夫。
- ・ 「この授業は知識を覚える授業」、「この授業は考えさせる授業」というのはありえず、3要素を含む必要がある。
- ・ 学習内容の項目が気になっているので知識が見えない。技能と言っても技能に伴う知識もあるので、学習内容に載せる。

矢崎 目標については野津先生の言われる通り。最後、指導案の形式のところでは野津先生が言っている様な形になるとよい。

石見 「AED を用いた応急手当ができる」ということが書いていないので、評価目標設定に入れて欲しい。

→ 野津 同じことを繰り返し替えて、(目標が)「AED を使えるように」ばかりになってしまうのではないか。

→ 石見 いつでもではなく、2限の内1つに入れるのはどうか？

→ 野津 ハードルが上がりすぎると思う。「できる」か、「できないか」という話ではない。評価でも「できる」から評価、「できない」から評価しないではない。「できる」「できない」に囚われるようなやり方になると、学習指導に沿っていないということになる。実際にテストでAED 使う訳にはいかない。チェックリストは評価でやるわけではない。

→ 石見 医療者としてはAED を使えるゴールにしたい思い。

→ 野津 それは教育者も同じだが、授業の中での評価として(「できる」とは言えない)。

→ 山下 勘違いする現場の先生は多い。統一しておかないとずれてきてしまう。

→ 岡野 評価の観点はどうすればよいか？新しい表記でやってよいか？

→ 野津 ネットに出ている(ものを元にすればよい)。

→ 吉原 どこまでスキルを身に着けさせるか？何でもかんでもスキルテストをするものではなく、教えられた内容で勇気を持てるかどうかの方が大事。思考判断、技能知識 新しい学習指導要領で求めている自己調整など求めているのでそこを入れていく学習指導要領に示されたことからそんなに外れていないものが作れると思う。

→ 野津 本時は学習指導要領に乗っ取る。ただ、有力な反対意見として、表現は技能であって思考判断ではなく、むしろ思考判断で読解力が不足などの意見も出ている。(※今後の継続的な議論として)

→ 石見 目標にAED という言葉が出てこないの、言葉自体は入れておいていただけるとありがたい

3) 小学校

① 指導案発表：発表者 立川(資料2-3 小学校指導案)

- ・ 指導案に基づいた**模擬授業**を以下の3学校で実施
 - 江戸川学園取手小学校 6年生3クラス(指導者：立川)
 - 学園の森義務教育学校 5年生(指導者：担任の先生)
 - 要小学校(指導者：立川)
- ・ ブレインストーミングの授業の難しさがある
- ・ 児童は倒れた人に近づく際も、見知らぬ人であれば近づかないと教えられている。そういう教育との整合性で、見知らぬ人が倒れていた場合、近づかなくてもよいが大声を出すなど自分ができることをすると教える。
- ・ 人形を使った実習の際、通信司令室役をやって119のロールプレイを行った。学園の森では時間がいないため、机を人に見立てて行った。机にハートをおいて先生が実技を行い、力が必要であることを見せた。そうすることにより、子供が赤いハートに注目して、率先して自分もやりたかった。先生がやることで、関心を促すことができる。

- ・ 校長、担当先生から、「自分にできることを小学生に考えさせることはとてもいいですね」との意見。「自分にできることを考えさせて実習するのが良い」という意見。「理科の単元に関連付けなくても、小学校5年生でも行っても良い。」という意見。
- ・ 要小では、小学校5年でもできるという印象を持った。

② 議事

矢崎 <指摘事項を以下箇条書き>

- ・ 指導案の形式で「題材名」は他（中高）では単元名になっている。単元名にしたときに、中・高の表現を参照する必要がある。
- ・ 「学習指導要領及び解説の位置付け」という項を中高でも持つか？
- ・ 題材設定の理由：単元の目標になるのでは？
 - 吉原 特別活動だから「題材」になっている。「単元」は使わない。
 - 山下 （※題材、単元の表記について）私（の考え）はそうじゃない。単元、題材というのならば、単元名が出る。中学校でも単元名の下に題材名がでる。単元名があって、（その上で）何を題材に使うかとあり、（この二つは）平行に並ぶものではないと考える。
 - 野津 少なくとも学習指導用要領・解説で出している物は単元と言わない。項目という。教材として出す段階で単元という。特活の場合、単元というものについて指導案を作る時にどう言っているか確認が必要。
 - 吉原 （題材、単元の表記について）小学校の学習指導要領を確認すると、「教師が設定した題材」と書いてあるので、題材がよい。
 - 野津 各教科でも学習指導要領では単元は出てこない。
 - 矢崎 形式は揃えたほうが良いという意味で申し上げたので、題材でも単元でもどちらでもよい。
- ・ 本題材の指導内：災害においても・・・の中で記載のある「台風」は災害名ではないので「大雨・洪水」等に変更。
- ・ 評価について：中高も併せ評価についてどこかに書くかを統一して書くこと
- ・ 事前の指導：指導計画でもないし、他の授業や中高のバランスを見て考える
- ・ 本事のねらいについて：独立した書き方になっているので、他で使っている文言を用いて書くといい。
- ・ 表記について：男児という表現が気になる。児童・子供で良い。Case1、2は事例1、2でよい。
- ・ 指導上の留意点：細かい表記が多いがどうか？先生の裁量に任せて細かく書かなくてもよいのではないか。
- ・ 後ろ向き、前向きといった表現、「死ぬ」といった表現の再考。
- ・ 電気ショック与えて AED を解説した後に、もう一度事例1に戻して考えを促す方がよい。
- ・ 不審者対応を出すタイミングがどうか？事例1を説明する際に言うか？
- ・ ケース2の内容：運動会と孫というのがややこしい。シンプルな場面設定に。例) おじいちゃんが遊びに来て一緒に遊んでいたら倒れたくらい。

- ・ 事例1と2のどちらを先に持ってくるか？大人的には1→2が良いが、子供の的には2→1ほうが身近に考えられるか？
- ・ 時間的に事例を2つやるのは厳しい。どちらか1つで考えさせれば十分では。

石見 ブレストに時間がかかるとの事だが、そこは時間がかかってもよいのでは。

ケースは1つでよい。学校保健会で作った登校中のケースのようなもの。（※オムロンの物）

→ 野津 ケースに関しては、せっかく作るのだからオムロン（※学校保健会の物）と一緒にではないほうがよい。

吉原 （中・高と）フォーマットを揃えるべきではないか。題材については、説明が必要。

項立てとして、揃えておくほうが見栄えとして一連の流れとして作っていることが明確。

展開の中で学習内容と学習活動を書いてあるがバラバラ。学習内容は体言止め、活動はこういふことで行うという表記の内容にすると書式が揃っていると思う。甲立と表記の仕方の統一の検討が必要

→ 野津：委員会から出すものについて書式の統一は良い。指導案は分かりやすいように作れば良い。但し趣旨は引き取らなくてはならない。

野津 <指摘事項を以下箇条書き>

- ・ 理科（に関わる）内容は（学習する）学年を入れておいたほうが良い。
- ・ 登場人物が男ばかりだといけない。祖父が祖母より心停止が多いというデータはあるか？指摘があった時に「こういうデータに基づいて作りました」と言えるようにすることが必要。
 - 以前、他の教材で女の子がスカートを履いている事の指摘を受けたことがある。
- ・ 年齢表記もいらない。心停止の多い年齢データが有るのであれば入れてもよい。
- ・ ケース2は多いという（意見もある）が、実際（模擬授業では）できたか？
 - 立川 時間はギリギリだった。
- ・ 事例1は導入として絶妙。いろんな可能性を出す必要があるので路上設定が良い。
 - いろんな意見、後ろ向きの意見が出る仕掛けがなくてはだめ。
 - 時間通りに進めるのが目的でなく、授業の質を担保することが大事。自分の思ったことをどんどん言っていていいと思わせてテンションを上げるために必要な時間。
- ・ まとめた後で事例1に戻って考える時間があると良い。生徒に言わせるかどうかは議論の余地がある。これまでは言わせていたが、考えてみようという終わらせ方でも良い。生徒に言わせると、（結論ありきで）これを言わせようとしているとなる。
- ・ 特活では前の前の改定の時に特徴を出すため、小学校では自己決定を必ずさせるようなスタイルが強調された。毎時間自己決定させても、「させた」だけで実はしておらず、形だけやらせているに過ぎない。
- ・ 通信指令員は消防署員が良い。

岸平 この授業の目的として、勇気を出して行動し自分で考える上に、「状況に応じて自らの安全を守る」が加えると一時間ではきつい。4年生でやる予定だが、何が削れるか？

- 立川 (教師が) 伝えて終わるだけなので(問題ないのでは?)。自分の安全を守るということは医療者側からは大事だが、自分にできることを自覚させることが一番大事。安全を考え(過ぎ)ると、(あれもできない、これもできないとなり)自分で何もできない子どもになる。
- 石見 優先度の話になる。(不審者云々は)少し触れるくらいでよいかと。
- 野津 特活の知識としては「自分の身を守ることが第一で・・・」という知識は正しい。実際に教えることになったとき、内容的に矛盾してくる。安全第一なら何もしない。ただでできることをする、ということ合わせて教えていく。発達段階4年生だと訳が分からず伝わらない。自分ができるところを挙げさせた上で、引き取るときに教師が触れて身の安全を説明していく。大事な内容として教師が語ることでやるべき。触れるという表現でよい。
- 岸平 指導上の留意点に入れるべきか?
- 野津 予想される意見として触れるのがよい。

矢崎 事例1の塾に遅れそう・・・という表現は教育現場として適切か?下校時間が伸びたイメージ。下校してそのまま塾に行くか?急いで走っていくのも教育上良くない。支障の無い事例にしたほうが良い。また、イラストも倒れている人との距離を感じて違和感がある。

- 立川 絵は切り貼りだったので(最終版ではない)。模擬授業では、子どもたちが塾に遅れるという事例を身近に感じてくれていた。
- 石見 塾に行けない子供の多い学校もあるのでは。
- 吉原 校長の立場では、学校から直接塾に行かれると学校の管理内になってしまうので嫌がる。一度家に帰ってから塾に行く前提。

石見 通信指令員とのやり取りはなくてよいのでは?(そこを省いて)事例1に戻ったやり取りにしたほうがシンプルになる。

- 本間 前向き、後ろ向きの意見が多く出ているので、そこに戻ることに賛成
- 白川 通信指令員との会話になると別の話になってしまう。
- 立川 最後に通りの流れを見せると以前はなっていたが、時間がギリギリになるので削除した。現場でも指令員とのやり取りはいらぬのでは?と言う意見もあったため、事例1に戻るのが良いと思うが、そうなったとき、事例2はあるか?小学生が119しなくては行けない状況を考えて出した事例なので、事例1だけで行けるのであれば(無くても良いか?)。
- 西山 小中高の積み上げで考えるのならば、指令員の話は中学に盛り込んでのよいのでは?
- 岸平 自分でできることを考えたときに、大声を出す、AEDを取りに行く、119通報などやっていないと出てこないのではないかと思った。
- 石見 指導上の留意点で触れるので良いのでは?
- 岸平 模擬授業を見て腑に落ちたので、もったいないと思った。
- 立川 勇気を持って削るのもあり。
- 石見 ブレストの持って行き方次第では。119するという意見が出てこなかったら、「周りに人はいなかったら、どうする?」など先生が振るといった留意点を示す。

- 野津 救急とのやり取りは中学校の教科書に載っている。自分なら、実際の音声を流す。ケース2は実際に家族が倒れたことのある子どもに対しての配慮事項が必要。がん教育でもそういった話が出てくる。(ケース2自体が)無くてよいならば無しにしても良い。
- 山下 小学生の場合は、今できることをやろうとなっている。取りにいけるか、頼めるかを抑えておけば十分。中学に上がったときに行動に移せる。
- 矢崎 補足説明内の「突然倒れた」と「倒れていた」状況の違いとして、突然倒れた場合は不審者の確率は低いのでは？目の前で倒れたという部分を子どもたちの意見が出ているページの留意点で説明してはどうか。

石見 保健の授業でもできるという点についてはどうか？

- 山下 さいたま市では5年間で継続した中で、特活でやるか道徳でやるかで議論があった。主事は既にやることは決まっていると拒否反応を示す。学級活動は入れやすいが、これからのことを考えると保健に入れたほうが良いと考える。
- 石見 せっかく保健の教科書にもあるので、オプションンとしてできると伝えられれば・・・
- 矢崎 指導案をどういう意味で教材につけるか？(指導案という呼び方ではなく)小学校児童事例とかにしておけば、何の授業かはパッと出てこない。
- 山下 養護の先生、体育の先生ができれば良いという問題ではない。理科や社会科の先生が特活でやったが、教科で(くくるので)はなく(実際に)やる場合にこうした指導案があると示すのも。
- 石見 学習指導要領に紐付ける前提。

関 指導案を見て、ここまで細かくしてどういうふうに結びつくかが薄れているような感じがする。このセットを使えばこの授業が楽にできると言った部分が不明。どこに視点を置いて考えていけばよいか。教材ありきで行くのであれば、教材を使ってできるような内容を。

→ 石見 それは次のステップ。指導案があり、それに合わせて教材を作っていく。

4) 今後について

石見 統一したフォーマットを石見、立川、事務局で整えて、メールで確認した上で、各担当が修正する段取りに。表現の統一、学習活動と学習内容の区分けなど意識して変えてもらう。

- ・ 統一したフォーマット :
 - 表現の統一(教科書に合った形で)
 - 一通りの資料に一貫性を持たせる
 - どこが修正をしているのかがオリジナルとわかるようにしていく
 - 指導案が固まったら先生用指導用教材。 → 場合によってはWGをそれ用に開く
 - 指導案を固めることが前提で模擬授業を行っていく
- ・ 矢崎 小学校の場合にはいくつか入り口があっても良いのではないかと？半ページ位の略案で書かれていけばよい

事務局連絡：スケジュールはあるが内容重視である。

西山 DVDの修正はどの段階？

- 小林 指導案を固めて模擬授業を行う。その後 DVD の修正を行う。年明けから事務局が DVD 制作を進める。
- 西山 どういうプロセスでやっていくのか？明らかにして欲しい。
- 小林 共有しながら進める。
- 石見 スケジュールの中に教材ドラフト版や WG 提示ということを踏まえた内容を含み提示する

村井 共学校で模擬授業をやりたい。修正をかけた段階でやりたい。DVD はコピーできないと聞いていたができるのか。

- 小林 DVD の複製は技術的には可能。

関 模擬授業を見ていて、アニメーションの根本は変わらない？高校生には子供っぽすぎる。違うところで変なリアクションが出てしまう。実写版などのほうが高校生としてはやりやすい。

- 村井 那智先生や自分からも実写版かと思っていたと意見が出た。アニメ版が最終との認識はなかった。実写版に近いイメージを持っていた。あっぱくんの心臓の音も教員からどうかと意見がある。
- 岡野 中学はアニメでも大丈夫。
- 石見 **最初はアニメで進めて、今後の検討事項に。** GL2020 が 2020 年 11 月頃に発表となるため、その後教材をバージョンアップしていく前提で考えてほしい。
- 石見 ライフサポート協会では、学研と組み実写版の教育教材を作っている。実写版作るのであれば学研を含み検討を行う。

村井 模擬 AED でも電気ショックが必要ないモードもあると良い。

- 矢崎 必要ある、なしだと事前にわかってしまうので、ランダムの方がよいのでは？
- 本間 音声は 2 分で終わってしまうのはどうか？
- 村井 トレーナーは事前に「あり・あり・なし・あり」といったように、設定できる。
- 西山 後ろにスイッチが有ると本物にもあると勘違いしないか？
- 小林 スイッチをオンにして渡す想定。（機能設定は教員が行う）
- 野津 シンプルがいい。DVD など音声聞ければよい
- 矢崎 AED は使う電気ショックやるというので良いのではないか
- 石見 疑似 AED をあえて作るのであれば、ありなしモードがあったほうが良い。
- 矢崎 教師用、児童用を作って教師用に色々な仕様を盛り込むのが良いのではないか
- 小林 技術的に可能か、価格的に理にかなっているかを確認する

以上